

令和4年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間 **最終**)

安浦中学校区 校番 24 学校名 呉市立安浦中学校

| 重点              | d 中期(3年間) 経営目標                             | e 短期(今年度) 経営目標                      | l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)   | m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))  |
|-----------------|--|-------------------------------------|--|---|
| ***<br>確かな学力の向上 | <b>貫</b><br>主体的・対話的で深い学びを実現し、確かな学力の向上を図る。  | <b>貫</b><br>①思考力・判断力・表現力を高める。       | 2学期に、安浦中学校区小中一貫教育合同研修会を中学校で行い、数学と理科の研究授業を小中の先生方で参観し、協議会をもった。話し合い活動を通して自分の考えを表現するという授業で、思考力・判断力・表現力を高める授業であった。また、生徒アンケートから、「進んで学習する」の項目で肯定的な回答が89.7%、「授業はよくわかる」の肯定的回答が92%であった。                        | 子どもの「問い」を生かした単元づくりについて、事例研修などを行う。「本質的な問い」「単元を貫く問い」を設定して思考力・判断力・表現力を高めていけるよう授業改善を行う。また、「呉版構想シート」「授業参観シート」の活用についても研修をもつ。  |
|                 |  | ②学びの基礎・基本を定着させる。                    | 結果が6月のデータであり、それ以後のデータをとっていないので、定着度の変化はわからない。ほぼ達成という評価であるが、自主的な家庭学習の充実にはまだまだ課題も多く、答を書き写して提出する等、学習内容を理解するために自主的に取り組んでいない生徒も見られる。しかし、「自主的に学習に取り組んでいる」の項目で肯定的な回答は中間最終ともに、約90%と高かった。                      | 自分では「自主的に学習に取り組んでいる」と肯定的に捉えているが、結果としては学力の向上に直結していない部分も多いということである。ただ単に出された宿題をやるのではなく、学習内容を理解できているかどうかを自分で意識しながら取り組める課題の出し方を工夫していく必要がある。  |
| **<br>豊かな心の育成   | <b>貫</b><br>感謝と貢献の心を持ち、協働して取り組むことのできる心を育む。 | <b>貫</b><br>③仲間や学校、地域への感謝・貢献の心を育てる。 | 昨年、一昨年と実施できなかった「みちクリーン活動」を実施した。地域の方や小学生とともに各小学校区の清掃活動をおこなうことを通して、地域の一員として活動していこうという意欲を高めることができた。   | ふるさと学習を継続しておこなうとともに、「みちクリーン活動」以外にも地域の行事などへのボランティア参加など促していきたい。   |
|                 |  | ④教育活動全体を通して礼節と規範意識を醸成する。            | 生徒アンケートで「自分には良いところがある。」と肯定的な回答をした生徒の割合は88.6%であった。目標値の85%に達し、目標の104%には達している。引き続き対応していきたい。   | 引き続き、アンケート分析から抽出した自尊感情が低い生徒の状況を教職員で共有し、学校生活の中で活動・活躍の場を設定し、声かけ・肯定的評価などおこなっていききたい。  |
| *<br>防災教育       | 「自分の命は自分で守る」力を育成するとともに、地域の防災に貢献する。         | ⑤「自分の命は自分で守る」力を育成し、保護者や地域の防災意識を高める。 | 教室掲示や土砂災害対応携帯マニュアル等を用いて、自宅周辺の危険区域等を確認している。「学校での防災のとくみは生活に役に立っています」という問いには93%の生徒が肯定的評価をしている。「家庭で防災について話をします」と答えた生徒も、僅かながら増加が見られた。   | 引き続き、土砂災害対応携帯マニュアル等を用いて、日頃から災害や防災についての呼びかけを行うとともに、家庭を巻き込んだ取り組みを検討していきたい。  |
| *<br>働き方改革      | 教師、生徒、保護者がもてる力を発揮し、活力ある学校を創造する。            | ⑥教職員が生徒と向き合う時間を確保する。                | 今回、生徒と向き合う時間が確保されていると答えた教員は86.7%と目標値の80%を達成できた。しかし、まだ、13.3%の教員がやや不十分と答えている。前回との大きな違いは、全ての教員が時間を工夫し確保に努めており、タイムマネジメントへの意識が高くなっている。ただ、現在の状況を見ていくと、ほぼ全ての教員に言えるが授業時間数が多く、勤務時間内に空き時間が少ないなど時間の確保が難しい状況にある。 | 授業時間数に関して大きく減少させることはできないが、全教職員がこれまででも取り組んできたように、今後も自分自身の作業や仕事の見直しをさらに行い、効率化を図る。また、学校全体においても、各行事の取り組み方の工夫、各種会議の効率化、校内研修の改善、部活指導の工夫など取り組んでいく。   |
|                 |  | ⑦長時間労働を削減する。                        | 今回の教職員アンケート「退校時間を決めて計画的に業務を行っています。」の肯定的な回答は60%であった。前回より2.9%伸びている。9月以降の在校時間45時間以内の状況は、9月47.3、10月52.6%、11月、12月、1月それぞれ63.1%であり、前回に比べ大きく数値が伸びている。各自が毎日の退校時間を設定し、ボードに名前を貼り見える化などの取組も大きな要因と考える。            | 前回の結果分析より、一人ひとりが毎日決められた退校時刻に退校できるようにタイムマネジメントを意識し、さらに仕事の効率を高める。また、学校全体では各種行事内容の工夫・改善、部活休養日の確実な実施とともに、部活指導のさらなる工夫を図る。時間外勤務が45時間を越えている教職員については、再度長時間勤務が生じる要因と改善策を本人だけでなく学年及び分掌等で整理し全職員で支え取り組んでいく。 |